

平成 28 年度 第 2 回浦安市文化財審議会議事録（議事要旨）案

- 1 **開催日時** 平成 28 年 7 月 20 日（水） 午前 10 時～12 時
- 2 **開催場所** 郷土博物館 視聴覚室
- 3 **出席者**
（委員）菊池眞太郎委員長、大塚三枝子副委員長、吉田敦委員、明保治男委員、
 穎原澄子委員、大村洋子委員、森田信雄委員
（事務局）細田教育長、永井生涯学習部参事、佐久間館長、池田、林、井口、尾
 上（記録）
（傍聴人）なし

4 議 事

1. 開会

- （1）委嘱状の交付について
- （2）教育委員会あいさつ
- （3）正・副委員長の選出について
- （4）正・副委員長のあいさつ

2. 議事

- （1）浦安市郷土博物館の活性化について（報告） 資料 1 別紙
- （2）旧醍醐家茶室の文化財指定について（報告） 資料 2 別紙・資料 3
- （3）企画展「浦安鐵鋼団地」の進捗状況 資料 4
- （4）「もっと知りたいふるさと浦安展」（準備中）の視察及び意見聴取
 「ふるさと浦安作品展」の開催について

5 会議経過

会議に先立ち、委嘱状の交付を行った。交付後、細田教育長があいさつを行った。

引き続き正・副委員長の選出を行い、委員長に菊池眞太郎氏、副委員長に大塚三枝子氏が選出された。

菊池委員長、大塚副委員長の挨拶後、各委員の自己紹介、事務局紹介を行った。

（1）浦安市郷土博物館の活性化について（報告）

配布資料に基づき、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記のとおり。

- （委員） 来館者が受け身でなく参加できるとか、博物館は静かなものだが、もっと議論する場をつくるとか、いろいろできたらと思う。
- （委員） かつては美術館、博物館は静かな癒しの空間的なニュアンスが強かったと思うが、現在は必ずしもそういう感じでなく、いろいろ動いているものもある。
- （委員） 体験型は皆さん楽しまれていると思う。子どもたち、3年生は郷土学習

で貝むきなどを行っており、かつてはアサリがたくさんとれたなどの話をしているが、アサリをとる体験は難しくとも、それを味わう体験などはよいと思う。

(委員長) 今でもやっているかと思うが、現状報告を。

(事務局) 婦人の会のご指導で、アサリを使った郷土料理教室などを行っている。博学連携担当職員として学校教員がおり、学校の体験学習を実施している。小学校については、各校で利用しており、年間1万人の小学生に来ていただいている。

(委員) 活性化の資料を見せていただき感じたことは、ほかの博物館などに比べて、よくここまで頑張ってきたな、ということである。あと9ページのアンケート、問1のところ、「浦安市の郷土博物館について、どのようなイメージを持っていますか」とあり、「学習ができる」、「郷土を知る」、「親しみがある」の回答が多い。子どもたちと長年、博物館を使ってきたが、まさにこの通りだな、と思う。「親しみがある」との点では、婦人の会の皆さんのようなボランティアさんがおられて、いろいろと教えていただいていた。

自分が若いとき『わたしたちの浦安』という資料集を作っていたが、当時は本当にページ数がなく、冊子も薄いものであった。教材化するものがなかったのである。博物館ができて、生き物や歴史など、学芸員の方によって、きちんとした情報が、モノとして出てくるようになった。教材として、組み込んでいけるようになった。かつて自分が担当していたときと比べると、現在では3倍くらいの厚さの教材を作ることができている。浦安の子どもたちを支えてくれる、本当によい教材を提供してくれたと思っている。

博物館ができた頃は、人とのかかわりが大事だといわれていたときで、博物館でボランティアの方々と触れあうことができ、浦安の子どもたちほど、地元のお年寄りと関わった実践はなかったのではないかと思っている。

(委員長) 開館当初、相当数のボランティアがいたが、16年経つと、高齢化が進んで、人数も少なくなっていることを心配している。現状はいかがか。

(事務局) 元漁師の方などでは、80歳を超えて来ていただいていることもある。人材育成が課題の一つと考えている。

(事務局) 今年度当初、実質、博物館に協力して顔を出していただける方が何人なのか、もやいの会には入っていないが団体で活動している方がどれほどいるのか、などをまとめてみた。現在、普段出入りをしている方で40名弱、そのうち地元の方は約半数。あとは文化財4団体や婦人の会など、団体を通して博物館に協力をいただく形が主となっている。

後継者づくりについては、開館当初から課題であり、養成講座などを行ったりしてきた。とくに震災以降、漁業技術や造船技術などでない、違う形のボランティア養成ということで4年間、そこに集中してやってきた。リピーター率は非常に高く、博物館への協力にも前向きの方々が多くみられた。ただ個別に依頼すると喜んで協力してくださるが、何かを自主的やるということまでは難しい。

- (委員) 日常、同じような経験を学生相手ですしている。学生は個別には来るのだが、会員同士のコミュニケーションが保てないことが多い。意図的にリーダーを作るとか、仕組みを作るしかないと考えている。
- (委員) 浦安のイメージでいうと、ディズニーランドがあって、近代的・現代的な住宅などもあって、新しい町なのかと思っていた。旧大塚家の実測に来たときに、漁師さんや半農半漁の生活があったということを知り、とても面白いと思った。
- 活性化案のテーマのところで、鉄鋼団地やディズニーランドなどについても書いてあり、かつての浦安と、新しい浦安の、どちらも知ることのできる博物館であるということが今後の在り方の一つと思う。
- 以前、他の博物館でボランティアをした経験がある。皆さん、社会で活躍されてきた方々で、仕事の仕方も違うことから、組織化するのは非常に難しいと感じた。小学生などが定期的に訪れるなど、メインイベントを核にして、そこでの役割分担を明確にして、どうにか回していた。
- (委員) 提言書を拝見して、祭りとか神社仏閣の起源とか、なぜ歴史をまとめる作業が入っていないのかと素朴に思った。今の喫緊の課題としては、かつての町などを知る方々の、口伝とか知識を収集することではないか。現在、どれだけ集めることができるかが勝負で、それが次の博物館活動の核になると思う。今の運営に目がいって、それに忙殺されては、いけないのではないか。
- (委員) 小学校時代の思い出として、一つは信号機が浦安に一台もなかったという、そういう時代であった。初めて信号機がついたのは猫実の庚申さまのところ。また浦安の中でも、一番の繁華街であるフラワー通り、映画館もパチンコ屋、飲食店などもあったが、舗装されてなく、雨が降ると水たまりができるといったところであった。境川も船で一杯であった。時の流れをみると、本当に変わってしまったなあ、と思う。この変わっていったこと自体が浦安の歴史なのだと思う。できれば子どもたちが、浦安がふるさとなんだと思えるような印象を持てる、体験ができる博物館であってほしい。残念なのは、海に囲まれていながら、海辺などが活用されていないところである。もっと活用できないか、と思っている。

(2) 旧醍醐家茶室の文化財指定について(報告)

配布資料に基づき、事務局より説明した。

主な質疑・応答については、下記のとおり。

- (委員長) 今後の茶室建築の大まかのスケジュールをお願いしたい。
- (事務局) 現在の予定としては、今年度中に移築に関する設計を行う。同時に庭についても設計を行い、来年度から公園の整備を行う予定である。
- (委員長) それに伴っての、文化財審議会との関わりはどうか。
- (事務局) 11月に別施設の茶室の視察を計画しており、また運営をどうしていくかなど、ご議論いただくことになると思う。

- (委員長) 移築に関しての設計ができたときに、専門家の頼原委員にアドバイスをいただくことなど、予定されているのか。
- (事務局) ご意見をうかがっていただければと思う。
- (委員) 博物館の管理となるのか。
- (事務局) これまでは生涯学習課で所管をしていたが、文化財指定となったため、郷土博物館の管轄となる。

(3) 企画展「浦安鐵鋼団地」の進捗状況

配布資料をもとに、事務局より説明した。

また吉田委員より、当日配布資料に関する説明があった。

主な質疑・応答については、下記のとおり。

- (委員長) 今回は鉄鋼団地の組合と、明海大学と、大きく二つのところと連携をしながら、事業を進めるということではどうか。
- (事務局) 現在、担当が鉄鋼団地協同組合と調整しているところである。写真等をお借りしたり、昔から携わっていた方にもご協力いただいて、直接、話をうかがうことなど行っている。明海大学にもご協力いただいて、よりよいものにしたいと思っている。
- (委員長) これまで公立の博物館が民間団体の方と連携をとるということは、あまり行われてこなかったケースなので、これからの展開としては、非常に有意義なことかと思う。明海大学とも博学連携という面で、二つの関わりで大変だと思うが、頑張っていたきたい。
- (委員) 鉄鋼団地に関して、全く知らないのですが、基本的な質問だが、この鉄鋼団地で、何が製造されていたのか。
- (事務局) 浦安の鉄鋼団地は、鉄鋼を生産する場所ではなく、流通と加工を行う、基地というべきものである。
- (委員) いわゆる鉄鉱石から鉄鋼を製造するのではなく、流通が中心で、高度な加工をするというものである。積み出し港を作りながら使われず、陸上輸送だけになったとか、また近隣で商店が増えたとかもないようである。
- (委員) 元町に住んでいて、鉄鋼団地があるということは知っていたが、そこで何をやっているのか、全然知らなかった。
- (委員) 鉄鋼団地ができて、町が豊かになったとか、何か変化はあったのか。
- (委員) 人口が増え、鉄鋼団地に勤めている方とか、経営されている方との交流は増えた。経済的な面で、どれだけ市の財政に貢献されたのかはわからない。浦安の埋立ての中に飛行場を作ろうかという話もあり、賛成派と反対派と両方あった。製紙工場の事件もあり、環境に対して、身近な問題としてとらえていたのだと思う。
- (委員) 浦安町時代のことについて、とても詳しい方もおられるので、お聞きする、よい機会ではないか。今、覚えておられる人材から、話を聞き出すのが喫緊の課題と思う。
- (委員長) 秋の企画展を楽しみにしている。

(4) 「もっと知りたいふるさと浦安展」(準備中)の視察及び意見聴取、「ふるさと浦安作品展」の開催について

配布資料をもとに、事務局より説明した。

翌日(7月21日・木)から始まる展示会であるため、会期前であったが、担当より内容の説明を行いながら、企画展示室を視察した。

展示されている資料や作品についての個別の質問はあったが、展示会そのものについて、会場では特に大きな質疑はなかった。

その他

■ 次回の会議

第3回浦安市文化財審議会は、11月16日(水)を予定。

茶室建築に関する視察を予定。

詳細は後日、連絡することとする。

以上をもって、平成28年度第2回浦安市文化財審議会は、閉会した。